

GIGAスクール構想の推進

—おやべGIGAスクール構想を基にした
教育DXの実現に向けた取組—

提言者 富山県小矢部市小中学校教頭会
小矢部市立蟹谷中学校 松坂 成規

1 主題設定の理由

2 研究の方法

3 研究内容

4 教頭としての働きかけ

5 研究の成果と今後の課題

1 主題設定の理由

富山県小矢部市



メルヘンの町 小学校5校、中学校4校



おやべGIGAスクール構想

将来、予測困難な時代をたくましく生きるために必要な「**情報を活用し、自ら学ぶ資質・能力**」を、市内すべての小中学校が連携・協力して育成することを目指す。

市教育委員会と連携した取組

I 期 3 年計画
II 期 2 年計画

令和3年度	I 期	ver. 1	いつでも、どこでも、どの教科でも使って 慣れる
令和4年度		ver. 2	慣れることで 便利さを知る
令和5年度		ver. 3	便利に使い 学習を充実させる
令和6年度	II 期	ver. 1	日常的に使い学習を充実させる
令和7年度		ver. 2	主体的な学びを充実させる

おやべGIGAスクール構想

【R6.4月】
小浜市教育委員会
教育DX推進委員会

おやべGIGAスクール 第II期 (ver.1)

■ おやべGIGAスクール構想
将来、予測困難な時代をたくましく生きるために必要な「情報を活用し、自ら学ぶ資質・能力」を、市内全ての小中学校が連携・協力して育成することを目指す。
また、教育現場において、デジタルやデジタル技術を活用することで、学習のやり方や教育方法、教員の役割等、学校教育のあらゆる面において変革を行うこと【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】の実現が求められており、令和6年度からの2年間で、さらに日常的な活用を推進していきます。

■ 実現に向けた2ステップ
構想を実現するために、2つのステップで進めていきます。第II期1年目の令和6年度は、ICTを「日常的に使い、学習を充実させる」ことを目標に、様々な場面でICT活用に取り組みしていきます。また、ICT活用事例を学校間で共有し、どの学校でもどの学年でも同じように指導できる体制をつくります。

■ クラウドを活用した「複線型の授業」の実践
全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。従来の教師主導で一斉授業を行う「単線型の授業」から、児童生徒一人一人が学習目標と活動を決め、責任をもって学習に取り組む「複線型の授業」への転換を図り「主体的・対話的で深い学び」を実現します。

■ 情報を活用し、自ら学ぶ資質・能力の育成

児童生徒側
Step 1 目的意識、興味、学習意欲を高める。
Step 2 主体的な学びを促す。
Step 3 協働的な学びを促す。

教師側
Step 1 授業の準備、ICTの活用方法を学ぶ。
Step 2 授業の実践、ICTの効果を確認する。
Step 3 授業の振り返り、ICTの効果を確認する。

■ 9年間体系的な指導
小中学校9年間を通して、児童生徒に情報活用能力が身に付くように、「おやべICTキャリアプローチ」(チェックリスト)を令和3年度に構築しました。児童生徒は、年数回、このシスラムで18〜27項目について自己評価します。その結果を分析し、「児童生徒は何かできて、何ができていないのか」を教師が把握して、今後の指導に生かします。
また、有効な指導・支援を共有し、各学校で実践が進むように、「おやべICTキャリアプローチ」の項目に対応した「活動事例集」の作成・活用も継続します。

■ 情報モラル指導の推進
タブレット端末は学校だけでなく、家庭での学習にも、積極的に活用してまいります。そのために、学校では、タブレット端末の活用に関する個人情報の取り扱い等のルールを守った使い方の普及、保護者(視か・聴覚等)にも配慮し、使い方の理解と協力の下、全ての学年で指導を行います。

ICT支援員が、ICTを効果的に活用した授業に向けて担任にアドバイスしたり、授業の準備や補助をしたりして、学習をサポートします。

タブレット端末は学校だけでなく、家庭での学習にも、積極的に活用してまいります。そのために、学校では、タブレット端末の活用に関する個人情報の取り扱い等のルールを守った使い方の普及、保護者(視か・聴覚等)にも配慮し、使い方の理解と協力の下、全ての学年で指導を行います。

主題設定の理由

おやべGIGAスクール構想の下

- ・ 教育DXの実現により、**児童生徒の学習が、より充実したものになるのではないか。**
- ・ 教育DXの実現により、**校務やPTA活動等において、働き方改革が推進されるのではないか。**

教頭としての役割、関わり方を
明らかにする。

2 研究の方法

- (1) 1年次 (令和5年度)
 - ・ 研究主題と研究内容の決定
 - ・ 各学校の実践の紹介
- (2) 2年次 (令和6年度)
 - ・ 実践事例分析と共有
- (3) 3年次 (令和7年度)
 - ・ 研究のまとめと大会発表

3 研究内容

- (1) 学習におけるDX
- (2) 校務におけるDX
- (3) PTA活動におけるDX

(1) 学習におけるDX

① ICT環境整備 ア:教室の様子



児童・生徒・教職員 → 教頭 → 校長 → 市教委

(1) 学習におけるDX

日常的にICTを活用することで学習を充実させるDXの推進

取組例の紹介

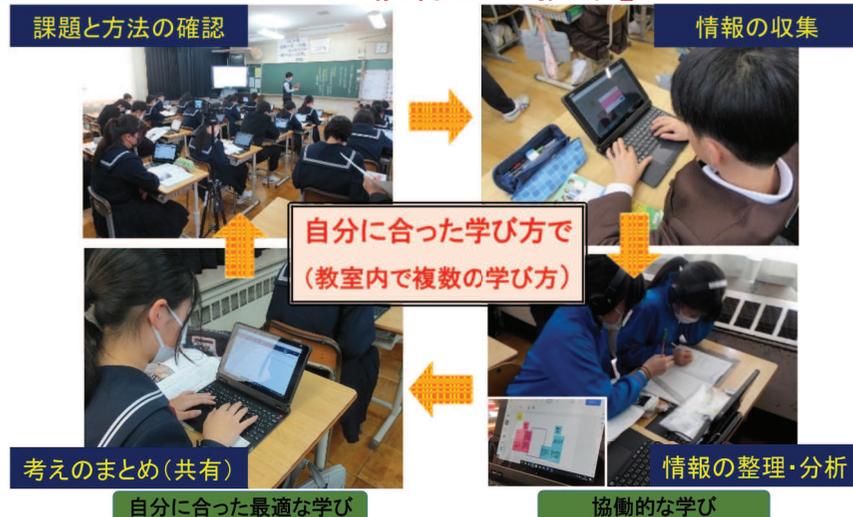
- ① ICT環境整備
 - ア 教室の様子
 - イ クラウドを活用した「複線型授業の実践」
- ② おやべICTキャリアパスポート
- ③ 研修会の推進

(1) 学習におけるDX

① イ: クラウドを活用した「複線型の授業」の実践

「単線型の授業」(従来の教師主導の一斉授業)

→ 「複線型の授業」への転換



(1) 学習におけるDX

② おやべICTキャリアパスポート

項目
児童は、ローマ字入力で長い文章を正確に打つことができる。
児童は、タブレット端末で撮影した画像や動画を、目的に応じて編集することができる。
児童は、ワード等を使って、文章表現ができる。エクセルを使って、適切な表やグラフ(目盛りやグラフの種類など)を作ることができる。
児童は、表やグラフから、必要な情報や数値、変化の仕方等を正確に読み取ることができる。
児童は、知りたいことを複数の方法で調べ、情報(ホームページも含め)を比較し、必要なものを選んでまとめることができる。
児童は、調べた情報を他の情報と比較したり他の人の意見を聞いたりしながら話し合うことができる。
児童は、自分の考えが相手に伝わるように、理由や根拠となる資料を提示するなど、表現を工夫することができる。
児童は、調べたことを表やグラフを作成する、写真や図を用いるなどして、スライドに分かりやすくまとめて発表することができる。
児童は、個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、ID・パスワードを他の人にわからないようなものにしていたりしている。
児童は、タブレット端末で画像や動画を送るときは、誰が見るか、その内容が適切かどうかを

DX委員長 (教頭) → 各学校教頭 DX担当教員 → 教職員 児童・生徒

(1) 学習におけるDX

③ 研修会の推進

ICTを活用した授業に積極的にチャレンジ!



授業の周知・参観

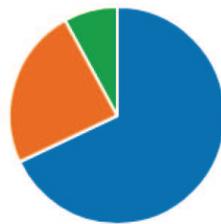


市教育センター ↔ 各学校教頭 ↔ 教職員

(1) 学習におけるDX

児童はタブレット端末で撮影した画像や動画を、目的に応じて編集することができる。

- あてはまる 71
- 少しあてはまる 24
- あまりあてはまらない 5
- あてはまらない 0



児童は、実験結果や資料から読み取った数値をもとに、表やグラフ、思考ツール等に整理して表すことができる。

- あてはまる 16
- 少しあてはまる 52
- あまりあてはまらない 32
- あてはまらない 0



(1) 学習におけるDX

③ 研修会の推進

講師を招聘し
先進校の取組を学ぶ
指導・助言をいただく



ICTを活用した授業を参観する

研修でもICTを活用



DX委員長 (教頭) → 各学校教頭 研修担当教員 → 教職員 児童・生徒

(1) 学習におけるDX

③ 研修会の推進 → 小中の円滑な接続

・小中合同研修会でDXの内容を企画



小学校 ↔ 教頭(小) ↔ 教頭(中) ↔ 中学校

17

(2) 校務におけるDX

① 会議、研修会資料のペーパーレス化

・職員会議資料
・校内教育支援委員会資料等

・児童生徒へのアンケート



時間のゆとり

準備・集約
時間減

・PTA総会資料・便り
・学校、学年からの便り
・行事予定 等

保護者(家庭) ↔ 学校 ↔ 教頭会

(2) 校務におけるDX

「働き方改革」「データの連携」の2つの観点を意識し、市内小中学校で連携し、校務におけるDXの推進を図っている。

取組例の紹介

- ① 会議、研修会資料のペーパーレス化
- ② 連絡用メール「tetoru」の利用
- ③ 学校評価アンケートでのFormsの利用
- ④ 児童会、生徒会アンケートの実施と集約

(2) 校務におけるDX

② 連絡アプリ「tetoru」の活用

できること

- ① 保護者からの欠席連絡
保護者にスマートフォン等からアプリで欠席連絡をしてもらっている。
⇒朝の学校への電話連絡数が激減した。



保護者 ↔ 学校
↑
教頭

(2) 校務におけるDX

② 連絡アプリ「tetoru」の活用

できること

② 学校からの連絡配信

- 学校からのお知らせはアプリで配信
- ⇒一斉配信により緊急時の連絡にも対応
- ⇒PDFファイルの添付も可能



保護者(家庭) ↔ 学校 ↔ 教頭会

(2) 校務におけるDX

③ 学校評価アンケートでのFormsの利用

- ① 学校評価をFormsを利用し、簡単入力、簡単集計を実現している。
 - 令和3年度より市内小中学校に広がる。
 - これまではペーパーを使ってアンケートを行い、たいへんな時間をかけて集計していた。
 - 現在、全ての小中学校でFormsを利用している。
 - 利点→集計、グラフ化が簡単、短時間である。
→保護者だけでなく、生徒、教職員も、いつでも、どこでも入力できる。

(2) 校務におけるDX

③ 学校評価アンケートでのFormsの利用

アンケート(Forms)

3. お子さんの様子から、低・中高学年で目指す「主体的に」の姿が見られる。
< 低学年 > 自分がやるべきことを、進んでやっている。
< 中学年 > 自分がやるべきことを、よりよいやり方でやり続けている。
< 高学年 > 成長するために何をすべきか考え、見通しをもち、継続して取り組んでいる。*

十分
 おおむね十分
 やや不十分
 不十分

4. お子さんは、「わかった」「できた」を感じながら学習している。*

十分
 おおむね十分

集計が短時間で済むことで、こんなこともしています。

学校評価を年度当初に行ってアクションプランの設定に生かす！

- ・家庭との連携を考えるため、より保護者の意見をアクションプランに取り入れていくこととした。

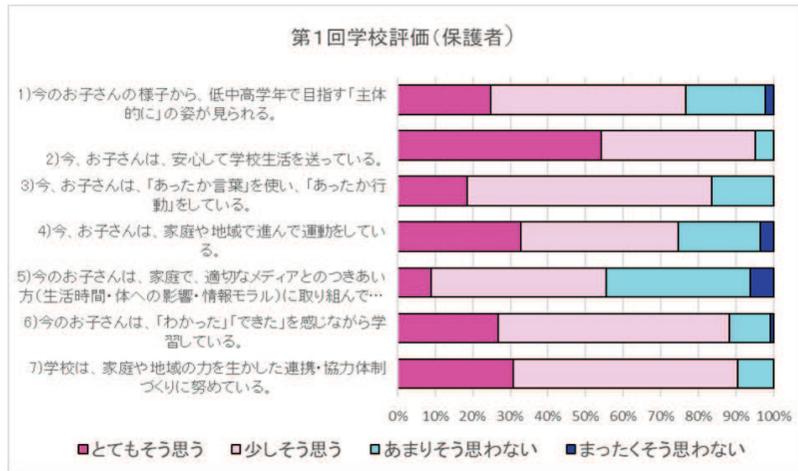
実践例 K小学校、T小学校



(2) 校務におけるDX

③ 学校評価アンケートでのFormsの利用

アンケートのグラフ化



アクションプラン

今年度は特に、「知」に関する「主体的に取り組む」と「体」に関する「メディアとのつきあい方」の二つに重点を置き、取り組みます。それぞれのアクションプランとその方策を紹介します。数値目標は上記の結果を基に決めました。

	よく考える子(知)	すすんで運動する子(体)
アクションプラン及び数値目標	低・中・高学年で目指す「主体的に取り組む」子供を85%以上にする。	生活時間や体への影響、情報モラルを考えて、家庭でメディアと適切につきあっている子供を65%以上にする。



(2) 校務におけるDX

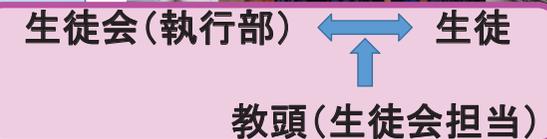
① 児童会、生徒会アンケートの実施と集約



生徒総会のペーパーレス化資料はタブレット端末に共有

質問状も廃止し、オンラインで入力後、共有できるように

学習発表会での取組
友達の作品の写真を撮影し、
そのよいところを紹介する



(3) PTA活動におけるDX

「確実な情報提供」「願いに沿うDX」を意識したPTA活動におけるDXの推進

取組例の紹介

①PTA関係資料配付のDX化
(会合の開催案内)

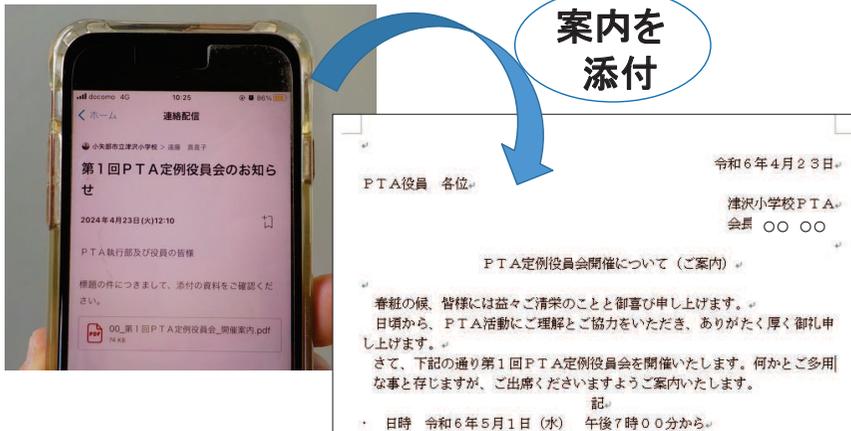
(PTA総会資料)

(PTA広報紙)

②PTA講演会のDX化

(3) P T A活動におけるD X

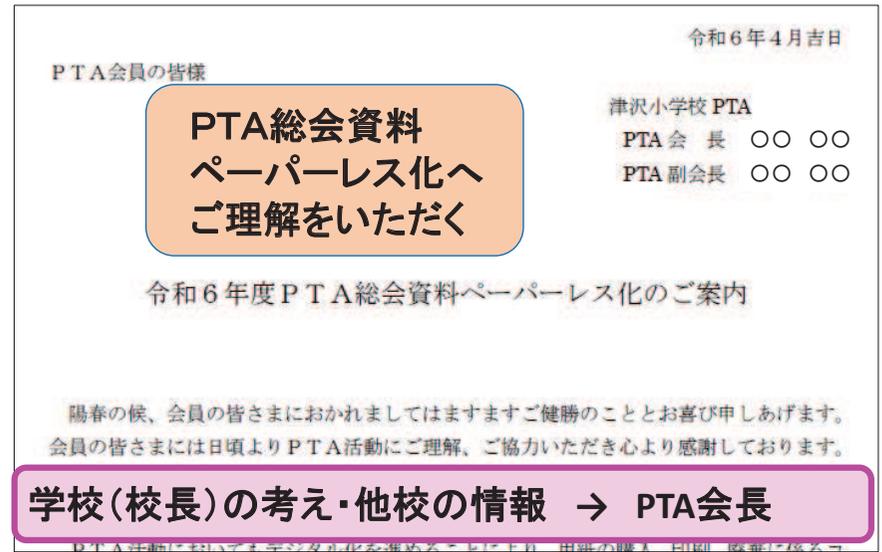
①PTA関係資料配付のDX化 (会合の開催案内)



PTA会長(執行部) ↔ 教頭 ↔ 校長

(3) P T A活動におけるD X

①PTA関係資料配付のDX化 (PTA総会資料)



(3) P T A活動におけるD X

①PTA関係資料配付のDX化 (PTA総会資料)



学校(校長)の考え・他校の情報 → PTA会長

(3) P T A活動におけるD X

①PTA関係資料配付のDX化(PTA総会資料)



スマホで
資料を確認

(3) P T A活動におけるD X

①PTA関係資料配付のDX化 (PTA広報誌)

PTA広報誌「かんだ」お知らせ)

2023年6月12日(月)18:32

保護者の皆様へ

本年度、PTA広報誌「かんだ」のペーパーレス化を初めて試みます。

これまで各家庭に紙面で配付しておりましたが、次の号よりtetoruや学校ホームページ上での配信のみになります。

ご理解の程、よろしくお願ひします。

PTA広報委員長より

PTA広報誌「かんだ」108号.pdf
1.29 MB

**PTA広報誌
ペーパーレス化へ
ご理解をいただく**

**初年度の
編集後記**

「新時代(ポストコロナ)」のページを

編集後記

本年度、PTA広報誌「かんだ」のペーパーレス化を試みます。これまで紙面で配付していましたが、tetoruや学校ホームページ上での配信のみになります。ご理解の程、よろしくお願ひします。PTA広報委員長より

しすう するH広思み「地子にのるーバ誌
てがま初とP報案る蟹を離のみにない「新
み、くめいへ誌しのつ離の住？どを速をレ
てどいてうアをたは子「か年度、P
くくの結ッ蟹結どにしま、うしやか試
ぞの試論ブ谷果うにしま、の蟹たかみの
さアかみにロ小、も届ま、「校らにみの
いク不の至！学P??届ま、「校らにみの
セ安たりド校T「けっこ蟹校良届まべ
スでめますのAとてたのっ区いけす！報

PTA会長(執行部) ↔ 教頭 ↔ 校長

(3) P T A活動におけるD X

②PTA講演会のDX化

情報モラルについての学習会

teamsで
各部屋をつなぐ



児童(全教室)



PTA会長(執行部)の願ひ → 教頭が解決策を提案

(3) P T A活動におけるD X

①PTA関係資料配付のDX化 (PTA広報誌)

**2年度の
編集後記**



～編集後記～

今年度最初回「かんだ」をお届けさせて頂きました。多くの方々に協力いただきありがとうございます。今年度も、tetoruで配信になります。不慣れではございますが、「いつもと同じ」「去年と一緒」から脱却、SNSを見る様な感じの広報誌を目指して頑張っていきたいと思ひます。1年間よろしくお願ひします。 広報委員一同

PTA会長(執行部) ↔ 教頭 ↔ PTAの方
地域の方

4 教頭としての働きかけ

- ・研修会への参加を**教頭が教職員へ促す**。
→ 教職員が新たな知見を得る機会が増す。
- ・アンケートソフト等を**教頭が率先して使う**。
→ 教職員による活用が促進される。
- ・教育D Xのアイデアを**教頭同士で共有する**。
→ 教職員やPTAに提案できる。

5 研究の成果と今後の課題

成果

- ◎ ICT機器の積極的な活用
- ◎ ICT機器の活用方法の情報共有
- ◎ 校務のスリム化
- ◎ 信頼される学校づくり

課題

- 教頭間の情報共有のためのシステムの構築
- DX化に向けた取組の充実

ご清聴 ありがとうございました。